

《公立公的病院等再編・統合阻止》

2020年6月23日

424 愛知共同行動 通信

NO. 47

発行：「424 愛知共同行動」事務局 愛知社保協地域医療委員会
(文責：長尾)

《地域医療情報No27》速報 「新型コロナウイルス対策」関連で重要な情報です！

☆「新型コロナウイルス感染症対策専門家会議」6/19

「新たなピーク時患者数」試算マニュアルと目安を発表！

最大 9.5 万床必要

* 第2波への備え！

(重症者 1万4千人) と試算

愛知県は 5,215 床 (重症 752 人)

厚労省は、新型コロナウイルス感染症の第2波に備えた病床確保計画を「専門家会議」で発表し、即日、都道府県に対し7月下旬をメドに体制整備の要請を通知しました。専門家会議が示した「新たな流行シナリオ」は、感染者が高齢者中心の「地方型」と生産年齢人口が中心の「都会型」の2パターンに分け、1週間の患者数が「人口10万人当たり2.5人」に達した日(基準日)から1日後、3日後、7日後にそれぞれ自粛要請した場合の患者数を推計しました。患者数の最大は「地方型」(高齢者中心モデル—R値2.0相当)の7日後に自粛要請した場合で、**全国合計は95,440人(入院患者数)、内、「重症患者」13,805人**となりました。《愛知県—5,215人、重症752人》厚労省は、試算マニュアルとパターン別の都道府県推計値を示しましたが、実際の患者数推計は都道府県がそれぞれ地域事情等考慮して独自に推計し、その推計値に基づく病床の確保計画を7月下旬までに策定し実施することを求める通知を発出しました！病床整備は「**即応病床**」—すぐに入院できる。「**準備病床**」—1週間程度で受入れ可能とし、内訳は「**60歳以上の高齢者は全員入院**」「**60歳未満は3割入院—7割宿泊施設**」と想定しました。

ピーク時患者数は、
第1波(3月想定時)—22.5万人(人口比0.1796%)、重症7,555人(人口比0.006%)
今回のピーク時患者数—9.5万人(人口比0.0762%)、重症13,805人(人口比0.011%)
入院患者数の想定は13万人も減りましたが、逆に重傷者は6,250人も増加しました。

しかし、都道府県が確保した<入院+宿泊施設>=3万7,553床では新たなピーク時に5万7,887床も足りません！各都道府県が独自に総定数をどれぐらいの数値を見込むかは未知数ですが、これまでの都道府県が独自に決めた必要病床目標(入院+宿泊)の総計=3万1,415床に対し、実際の<入院+宿泊>確保は3万7,553床と目標をクリアしています。***愛知県も、目標1,500床に対し<入院+宿泊>で1,800床を確保しました。**しかし、新たなピーク時患者数の目安は5,215人と、確保数に対し3,415床も増加しています！愛知県は、どのような数値目標を試算するのでしょうか？国の試算マニュアルは、ある意味、全国同一基準に基づく計算式で試算し、基本的には全国一律基準です。その試算式に明確なエビデンスがあるのか？問われるところですが、それを違える試算が出てきた時には、いかなる根拠に基づく試算であるか？ということが問われることとなります。愛知県が、入院確保病床500床の根拠に「ピーク時の入院患者数が最大245人だった」(から足りている)という事実を表明していることから、「新たな流行シナリオ」の試算をどの様に決定するのが、注目されます！ *裏面に比較表

